

月刊「建設」では本号から新コーナーとして「建設技術者のためのこの一冊」の連載を開始します。会員の皆様の自己啓発、幅広い見識の形成等のお役に立つよう新旧の学術図書、随筆、小説等を紹介합니다。

荒廃する日本 これでいいのか ジャパン・インフラ

著者：インフラ再生研究会
編者：日経コンストラクション
発刊：日経BP
税込定価 2,200 円



かつて、1970年代のアメリカは公共事業投資を大幅に削減。インフラの劣化が進展。

「荒廃するアメリカ」と呼ばれ、大規模な橋が落ちたり、通行止めとなったりするなど、深刻な事態に陥った。国民生活や経済活動に負の影響を与えると同時に、予算の縮小がもたらした新たなインフラ整備の遅延が米国経済の国際競争力の低下を招いた。インフラを軽視したツケの反省を踏まえて、インフラ投資を拡大するなどの対応がとられ、アメリカはインフラ再生への道を歩み始めた。最近でもオバマ大統領、トランプ大統領はインフラ投資を強力に進めている。

では、日本はどうか。財政再建を理由に1990年代後半からインフラ整備のための予算が削減されてきた。最近でも「わが国の社会資本の整備水準は大きく向上している」「インフラは概成しつつある」「今後のインフラ投資はより厳選して行う必要がある」との論調があるが、本当なのか。インドネシア、

タイを始め海外の空港や高速道路と比較して、我が国のインフラの整備水準は二流、三流のレベルに落ち込んでいるのではないのか。激甚化する災害によって毎年のように発生している被害や老朽化により劣化していくインフラの状況を見て「概成しつつある」と言えるのか。

本書は、河川、道路、下水道、港湾、都市などの各行政分野で豊富な経験を積まれた全建会員の先輩方が執筆。インフラ整備を推進し、経済成長を果たすことにより、財政力を確保する好循環を作り出すことが今の日本に求められている。「荒廃する日本」と言われるような状況を招いてはいけない。日本のインフラ整備の現状を再点検し、今後のあるべき方向を示す。建設技術者がぜひ読んでおきたい一冊である。

主な内容

- 第1章 荒廃するアメリカ 何が米国のインフラを蝕んだのか／「荒廃するアメリカ」が示した処方箋とアメリカの再生
- 第2章 道路インフラ 老朽化する道路インフラ／道路への新規投資は本当に不要か
- 第3章 治水・利水インフラ 老朽化する治水・利水インフラ／治水・利水への投資は十分か
- 第4章 下水道インフラ 見劣りする下水道整備水準／下水道事業の将来像
- 第5章 港湾インフラ 老朽化する港湾インフラ／諸外国に後れを取る港湾
- 第6章 都市というインフラ 疲弊する地方都市／官民連携でコンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり
- 第7章 荒廃する日本にはいけない インフラの二流、三流国に低迷する日本／待ったなし、山積する課題